商学部
The Faculty of Commercial Sciences

産 Industry　教 Education　街 Promotion of our community

研究トピックス

都市における人口、商業、公共交通の研究

専門分野

都市地理学　経済地理学

川瀬　正樹　KAWASE Masaki

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdygygsggy

研究概要

大都市郊外住民の通勤の男女差、住宅地の高齢化や交通問題、地方都市の商店街の現状と課題等について研究してきた。地理情報システム(GIS) を活用して人口や商業などを分析しているほか、広島平和学習への GIS の活用例を国内外の学会等で発表してきた。また、研究のため 1 年間、スウェーデンに派遣され、移民や環境に配慮した、北欧の持続可能なまちづくりの実践例を観察してきた。

研究シーズの応用

これまで、市史や町史の人口、都市、交通、商工業等の現代部分を執筆したほか、住宅団地を調査し、学生と住民とともに課題に取り組んだ実績がある。また、過去の空中写真（航空写真）と地図に関する講演や、地理情報システム（GIS）による商業分析の公開シンポジウムでの報告、GIS による初歩的な人口分析手法の地方自治体向けセミナーでの報告を行ってきた。さらには、GIS を平和教育に活用する学会イベントに、毎夏、主催者の代表者として参加している。まちづくりや都市・人口問題のほか、地図や GIS の分野でも地域社会に寄与できると考えている。

キーワード

都市　GIS　北欧

商学部
The Faculty of Commercial Sciences

観 Tourism　情 Information　街 Promotion of our community

研究トピックス

主にBig Data・GISなどを用いた観光行動・ビジネスの調査研究

専門分野

観光（観光ビジネス・観光行動）

金　徳謙　KIM Deokkyum

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiygsykggy

研究概要

主に島嶼観光が周辺の地域にもたらす効果を、膨大な量の文字や画像、映像など、いわゆる Big Data を手がかりに研究しています。データの収集および分析には主に、（1）文字データにはテキストマイニング（内容分析）、（2）画像データには AI を応用した解析技法、（3）空間データにはデジタルマップの制作・操作・分析に欠かせない GIS（Geographical Information System）分析、を用いています。このため、従来の抽象的でわかりにくい結果とは異なり、より客観的で明確な結論を得ることができます。

研究シーズの応用

つぎのような 4 分野に応用ができると思います。

・地域の観光情報発信のための WEB 用 3 D 観光ガイドマップの作成
　GIS を用いた正確なデジタルマップを制作し、ホームページなどへの公開することで、地域の魅力を新たな感覚でアピールすることができます。
・地域における観光者の回遊行動の把握・分析
　来訪する観光客の行動を「多分」こうだろうと把握しているケースが多いと思いますが、観光者の行動を GPS などを使った調査により、より正確に把握することができます。このため、地域内における精度の高い観光計画や需要の予測などができます。
・観光者が地域に対してもっているイメージの分析
　アンケートなどによる調査では地域の立場から観光客が持っているだろうイメージを推測することはできますが、実際の観光客が持っているイメージを把握することは、ほぼ不可能です。観光客が SNS などに書き込んだ膨大な口コミや評価情報（いわゆるビッグデータ）を収集、分析することで、観光客の本

音を読み取ることができます。

・観光政策やまちづくりに必要な基礎調査

政策立案は正確なエビデンスに基づく必要があります。正確なエビデンスは精度の高い調査を行うことでこそ手に入れることができます。観光客の本音を読み取る、行動を正確に把握する、特徴を正確に把握するなどのことは、近年のビッグデータやＡＩ技術を応用した手法を用いることで必要なデータを入手することができるようになります。

キーワード

Big Data　GIS　観光　行動

商学部
The Faculty of Commercial Sciences

産 Industry　情 Information　街 Promotion of our community

研究トピックス

消費者意識調査、政治的消費行動、国間比較分析

専門分野

マーケティング論、消費者行動論、マーケティング・リサーチ

厳　秀延　YAN Xiuyan

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymmeygyeggy

研究概要

これまでの研究は、倫理的消費行動（ethical consumption）の一種である政治的消費行動（ボイコット vs. バイコット）をテーマに国間比較分析を行ってきた。主に、国際マーケティングの観点において、グローバル企業が予測しない消費者ボイコット運動に直面した場合、企業戦略が消費者の心理的プロセスから実際の消費行動にどのように影響を与えるかを学術領域から検討してきた。

研究シーズの応用

地域や産業界が抱える問題を対象に、実際の授業で取り組むことで、実際の社会問題に対する大学生の視点からのリサーチ案を提案してもらう。そして、アンケート調査により収集されたデータを用いて、リサーチ案の実現可能性を分析する。

キーワード

消費者、地域課題

商学部
The Faculty of Commercial Sciences

産 Industry　街 Promotion of our community

研究トピックス

公正かつ効率的な食品流通のあり方の追求

専門分野

食料流通学　農業市場論　農業経済学

矢野　泉　YANO　Izumi

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymidgeyeggy

研究概要

農業経済学の中の農業市場学という分野で、農産物・食品の流通問題に関わる研究を行っています。生産者が農産物や食品を持続的に供給できる仕組み、またそれら生産物を量的、経済的、社会的に消費者に安定供給するための社会構造や政策を研究しています。

これまでの主な研究テーマとして、まず東南アジアにおける日本産農産物の市場動向と日本農業、東南アジア及び東アジアの食生活、東南アジアにおける学校給食普及等アジアの農業・食料に関わる問題解決に現地調査をふまえ、現地の研究者とともに取り組んでいます。日本国内においては、卸売市場やスーパーマーケット、専門小売業者等流通関係者からの聞き取り調査や統計分析、政策分析を基に、取引上あるいは政策上の現状分析と問題抽出を行い、農業市場学的な理論的議論や、問題解決のための具体的議論を行います。

研究シーズの応用

・卸売市場の整備や経営展望作成等の相談、助言
・食料消費動向等消費者アンケート調査の分析
・商業の活性化支援
・農漁村地域の活性化支援

キーワード

農産物・食品流通　卸売市場　東南アジア

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

産 Industry　街 Promotion of our community　福 Welfare　教 Education

研究トピックス

現代日本における性的マイノリティ／LGBT に対する社会意識に関する研究、クィアをめぐる表象文化に関する社会学的研究

専門分野

ジェンダー／セクシュアリティ研究、LGBTQ+研究、クィア研究、社会学

河口　和也　KAWAGUCHI　Kazuya

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymisgoyyggy

研究概要

近年、日本社会においても性の多様性や性的マイノリティに関する注目がなされるようになってきました。そうしたなかで、これまでは日本社会における性的マイノリティ／LGBTQ+に対する社会意識の研究を行ってきました。科研研究の研究チームの研究代表者として 2015 年、2019 年に全国を対象に社会意識を把握する大規模調査を行い、基礎的なデータを作成しました。これらの研究成果は、行政・教育・報道等で活用されています。

個人としては、社会学／クィア研究という領域のなかで、メディアにおいて性的マイノリティがどのように表象されてきたか／表象されているかの研究を行ってきました。とくに、テレビ／映画を中心に、そこに表れるセクシュアリティの表象や性的マイノリティの表象を考察する研究を行っています。また、近年は大都市ではない地域、いわゆる地方都市に生活する性的マイノリティの生活実態や直面する諸問題についての研究も行っています。

研究シーズの応用

2023 年 6 月に成立した LGBT 理解増進法では、行政・企業・学校等に対して性的マイノリティに対する様々な配慮・支援や相談対応等を推進していくことが明記されています。また、実際に、社会においてもダイバーシティの観点から、様々な領域で施策を実施することが要請されるようになってきました。

性的マイノリティに対する意識調査や生活実態の調査に関する成果を基盤にして、行政や企業・学校等における LGBTQ+に対応するための様々な調査企画や実際の対応・支援の方法についてのアドバイス提供で協力することは可能です。これまでにも企業や教育現場、行政に対する研修等では協力関係を構築してきました。

キーワード

LGBTQ+、人権、ダイバーシティ／エクィティ／インクルージョン

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

教 Education

研究トピックス

数学的な考え方の育成を基盤にした授業構成

専門分野

数学教育学　算数科教育　小学校教育

木村　恵子　KIMURA Keiko

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkigygkggy

研究概要

１．生活算術運動期の算数科カリキュラム研究を行っている。生活算術運動における理論と実践の統合について緑表紙教科書を通して分析している。

２．日本の算数科教師に潜在している日本型授業の特質を，ナラティブを用いて分析している。本研究で用いたナラティブ的アプローチは，教師自身が意識していない授業づくりについての知恵やスキルを顕在化させるとともに，異世代間教師の協働性を促進する知恵やスキルの伝承に有効であることが示唆された。

研究シーズの応用

１．小学校の教育実践の様々な活動における理念や実践の統合の促進。

２．集団での世代間のスキルや知恵の伝承のしかけづくり。

キーワード

教科教育　授業づくり　数学的な見方・考え方

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

教
Education

研究トピックス

美術教育の内容や方法

専門分野

美術教育分野

沼本　秀昭　NUMAMOTO　Hideaki

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdsygogggy

研究概要

人間はなぜ絵画などの表現活動を行うのか、その根本的な意味を追求する作家論から、学校教育として美術教育の指導や内容に触れる具体的なものまで幅広く美術教育について研究しています。すべての研究は「表現活動は人間の本能的行為である」との理念に立っています。具体的な内容は、作家論（主題とその表現の特徴について)、絵本作家とその特徴、絵画の指導法、絵画・彫刻などの作品鑑賞、発達段階を踏まえた教材内容とその指導方法、などです。

研究シーズの応用

学校教育としての美術教育だけではなく、乳幼児における造形教育や生涯学習としての美術教育などにも対応出来ます。また実際の実技制作(絵画・デッサンなど平面分野のみ)の活動も可能です。

キーワード

表現、乳幼児の造形活動、生涯学習

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

教 Education　環 Environment　栄 Nutrition

研究トピックス

環境と科学に興味のある人材を育成する

専門分野

微生物学　理科教育学

松崎　雅広　MATSUZAKI Masahiro

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymidygydggy

研究概要

・小学校理科の教育実践、社会人向け講座の開講
・生活に関連する科学の知識の理解

研究シーズの応用

藍染教室や南極観測隊としての講演も可能。

キーワード

生活の中の科学　野菜栽培技術　食育（調理師免許取得）

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

観 Tourism

街 Promotion of our community

研究トピックス

伝統的な祭り・行事の継承、民俗文化財のまちづくり・防災・観光等への活用

専門分野

民俗学

三隅　貴史　MISUMI Takafumi

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymmoyysgggy

研究概要

人口減少・高齢化が進む中での、現代日本における伝統的な祭り・行事の維持・継承について研究してきました。その中でも、伝統的な祭り・行事に対する地域外参加者（よそ者）の参加が、主要な研究テーマです。これらの研究テーマと関係する現場を実際に歩いてみたいと思っています。

それ以外に、民俗文化財の保存や、民俗文化財の価値に関する教育普及、そして、民俗文化財のまちづくり・防災・観光等への活用についても研究しています。

研究シーズの応用

・継承が困難になりつつある伝統的な祭り・行事に対して、より「良い」祭り・行事の継承（あるいは、休止）についての助言等が可能です。大学生と共に祭り・行事に担い手として参加しながら、調査等を行うことも検討します。

・民俗文化財を利用した地域コミュニティの活性化・災害への抵抗力の涵養といった、幸福・安全に地域に居住し続けるための取り組みに対する助言等が可能です。民俗文化財の記録作成等もお引き受けできます。

・民俗文化財を利用した、観光・関係人口増加政策に対する助言等が可能です。

キーワード

民俗文化財、関係人口、防災

人文学部
The Faculty of Humanities and Human Sciences

教 Education　街 Promotion of our community　他 Other

研究トピックス

ひとづくりとまちづくりの好循環を創る学びのデザインとその社会的成果

専門分野

生涯学習論　社会教育学

山川 肖美　YAMAKAWA Ayumi

教員情報 https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymibgbgyggy

研究概要

1960 年代半ばにユネスコで生涯教育の考え方が提唱され、日本はそれをいち早く取り入れ、学校教育、社会教育、家庭教育の領域で様々な改革が実施されてきた。この改革の拡がりは、少子高齢化を伴う人口減少を背景に、教育領域にとどまらず、社会全体に広がりつつある。生涯学習担当部局の教育委員会から首長部局への移管化や 2018 年の中教審「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」における多様な人・セクター間の協働に関する記述等がその証左である。こうした中で、学びよりも地域づくりやまちづくりを偏重する動きもみられ、地域づくりやまちづくり起点の学びへの重点化が進み、結果として、地域課題解決や地域づくり・まちづくりに一見してつながらない学びの価値への軽視が一面でみられるようになった。

こうした現況と方向性に対して、ひとづくりとまちづくりの好循環を生む学びの仕掛けを創ることで、多様な学びに対する再価値化を図ることを目的に研究を進めている。まちの社会インフラとしての多様な学びの場や機能に着目し、先行する国内の市町やデンマーク・オーフスやアメリカ・ポートランド、ユネスコの学習都市（learning cities）等の思想と実装に学びつつ、その意義を整理するとともに、社会教育における個人起点の多様な学びを地域づくりやまちづくりの実践へつなぐための学びのデザインとそれが在ることによる社会的成果を明らかにすることに取り組んでいる。なお、ここでいう学びの社会的成果とは、学びによって「個人と社会にもたらされるすべての利益」（OECD Synthesis report2007）を意味するが、とりわけ、暮らしの質の向上とシビック・エンゲージメント（civic engagement）に焦点をあてている。

研究シーズの応用

世界に先駆けて少子高齢化を迎えた社会課題先進国・日本では、”新しい公共”の考え方のもとで世代や

立場を越えた人と人・知恵と知恵とのつながりにおいて、多様かつ未知の社会課題に向き合うことが地域や社会の持続には欠かせない。学習組織としての企業組織のあり方が提唱されたり、ワークショップと行政計画の策定を繋ぐコミュニティデザインを生業とする仕事が生まれたりなど、学習や教育が、学校を始めとする公的組織・機関にとどまらず、多様なセクターや場において創出され始めていることはその証左の一つであろう。

このように社会全体に必要とされ、拡がりをみせつつある学びの実践に対して、私の研究は、生涯学習論や社会教育学の視座から理論的根拠や実践のフレームを提示することができる。1990 年代にヨーロッパ諸国から始まり、2015 年にはユネスコが主導する学習都市ネットワークの促進により世界 600 都市に拡がった学習都市の思想と実践は、学びを社会インフラに据えることで社会的包摂とイノベーション創出を兼備する持続可能な都市を目指すものである。地域にある学習装置（学習機会や学習コミュニティ等学びへの出入り口となる場）を通じて多様なセクター、多様な世代、多様な立場の人たちがつながることで、人と人、人とまちが出会い・学びあい、その社会的成果として個人の暮らしの質が高まり、社会関係資本や経済活動・文化活動・地域活動等が生まれ、持続可能な地域社会を構築する。

こうした考え方により社会変革を志向する人や組織・機関とともに共同研究や研究成果に基づく諸計画の立案・実装の協働活動ができれば幸いである。（ご関心の方は、研究課題「オープンガバナンスによるまちづくりと生涯学習」（2018 年度ひろみら特別研究）、研究課題「学びから生まれるシビックエンゲージメントによる持続可能なまちの構築」（2019-2021 年度科研基盤 C 課題番号 19K02489）の研究成果をご一読ください。）

キーワード

学びのデザイン　持続可能な地域社会　シビック・エンゲージメント

経済科学部
The Faculty of Economic Sciences

産 Industry　街 Promotion of our community

研究トピックス

広義の地域産業振興

専門分野

地域産業政策論

太田　耕史郎　OTA Koshiro

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymikgyysggy

研究概要

地域産業振興のための方策（地域産業政策）を教育，暮らし，事業文化を含めて，また主に米国中西部の諸都市を参考事例として研究している。研究成果の一部は『地域産業政策論』,『ラストベルト都市の産業と産業政策』（何れも勁草書房）として発表している。

研究シーズの応用

地域の持続的発展には生活の基盤となる就業機会の創出，そして地域の状況に応じた地域産業政策が不可欠となる。その地域産業政策を研究課題としている。

キーワード

産業　街づくり　創造的事業文化

人間環境学部
The Faculty of Human Environmental Studies

観 Tourism　環 Environment　他 Other

研究トピックス

海洋環境保全のための生物多様性学

専門分野

動物系統分類学　海洋環境科学

岡西　政典　OKANISHI Masanori

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymbsgkodggy

研究概要

海洋は地球の 7 割（面積）から 9 割（体積）を占める重要な環境である。近年、プラスチックによる汚染などによって多くの海洋生物に影響が与えられていることが問題となっており、その保護が喫緊の課題となりつつある。しかし海洋生物は水中におけるモニタリングの難しさから、その保護対策の選定が難しい。本研究では、環境 DNA 手法などの開発によって、海洋生物を対象としたモニタリング方法の策定を行う。

研究シーズの応用

企業が海洋環境を開発する際の海洋環境モニタリング法を提供することが可能。特に環境 DNA モニタリング法は、最新研究に基づいた非破壊的な方法である。

キーワード

瀬戸内海　海洋環境汚染　海洋環境保全

人間環境学部
The Faculty of Human Environmental Studies

環 Environment　街 Promotion of our community

研究トピックス

野生動物の生態を解明し、適切な保全・管理手法を考案する

専門分野

野生動物管理学

奥田　圭　OKUDA　Kei

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymbkyogsggy

研究概要

野生動物、特に哺乳類、鳥類を対象とした生態研究に取り組んでいます。近年、シカやイノシシなどの野生動物の個体数増加・分布域の拡大が全国的に生じており、人間社会との軋轢が顕在化してきました。このような状況を軽減するため、野生動物がどのような生態をしているのか明らかにし、その情報をもとに、彼らをどのように管理または保全していけば良いのか考える、「野生動物生態学」、「野生動物管理学」、「保全生態学」をベースにした研究を展開しています。

研究シーズの応用

野生動物の生態調査や被害対策の指導等に対応可能です。

キーワード

野生動物　生態　農作物被害対策

人間環境学部
The Faculty of Human Environmental Studies

産 Industry　教 Education　環 Environment

研究トピックス

生命の起源研究と熱水を利用する環境技術開発

専門分野

化学　生命科学　環境科学

川村　邦男　KAWAMURA Kunio

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiygyyiggy

研究概要

生命の起源を研究しています。このために世界に例のない熱水フローリアクターを開発しました。この手法は基礎研究だけでなく、環境改善技術シーズとして、応用展開が期待されています。私達の開発した熱水フローリアクターは、最高温度 400℃、圧力 1000 気圧で、0.002～200 秒までの短時間の反応を追跡できます。また、分光システムと結合して、様々な物質の反応過程を紫外・可視・近赤外領域で in situ 観測できます。また、鉱物や固体触媒を用いる反応にも適用できる装置も開発しました。すでに、固体触媒の開発ツールとして、また、繊維製品の熱水処理技術をこれらをベースに開発し、実用化をめざしています。

研究シーズの応用

固体触媒は化学プロセスの効率を改善する魔法の薬として、開発が進められてきました。しかし、これらの作用をその場観測することは難しかったです。私達の手法を用いれば、固体触媒の開発効率を劇的にアップできると期待されています。また、中規模サイズの熱水フローリアクターを用いて木綿廃棄物からフルフラールなどの有用成分を連続的に生成するシステムも開発しました。これらの実用化をめざすとともに、その他の展開も共同研究によって期待されます。

キーワード

環境技術　化学プロセス　自然科学のアウトリーチ

人間環境学部
The Faculty of Human Environmental Studies

環 Environment

他 Other

研究トピックス

小規模自治体に最適な温室効果ガス排出量調査法の研究，農業部門の温室効果ガス研究、計測しない住宅の用途別エネルギー需要推定法の開発

専門分野

建築環境工学　地域エネルギー・物質フロー研究　民生部門環境負荷分析

田中　昭雄　TANAKA Akio

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkmygooggy

研究概要

小規模自治体が自前で、地域の温室効果ガス排出量を推定するための調査法を自治体職員等に技術指導や人材育成に協力します。

研究シーズの応用

公的に提供される地方自治体は、脱炭素化の PDCA 実現には、データ精度や提供されるタイミングの観点で、不充分です。統計の素人でも実戦可能な地域環境負荷調査法について提案します。

キーワード

温室効果ガス，PDCA サイクル，農業，市町村別，家庭部門

人間環境学部
The Faculty of Human Environmental Studies

産 Industry　環 Environment　街 Promotion of our community

研究トピックス

地球温暖化防止のための炭素税やエネルギー政策などを研究

専門分野

環境経済学　環境政策論　持続可能な発展論

羅　星仁　NA　Sungin

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymimgigyggy

研究概要

再生可能なエネルギー普及のための国際的な研究を行った。再生可能なエネルギー導入による経済・環境への影響を計量的に分析し、その効果を明らかにした。現在は、再生可能なエネルギー普及のための東アジアにおける国際協力の推進および、原子力発電の可能性や安全性などをめぐる国際協力に関する研究を行っている。

研究シーズの応用

気候変動防止のための様々な政策がこれから導入されると思います。その中でも再生可能なエネルギーをめぐる政策や低炭素社会を実現するためのカーボンプライシングなどの議論で見れるように企業の負担増を伴う政策の導入が見込まれます。そのような政策への企業の対応などに協力できるところがあると思います。

キーワード

地球温暖化　再生可能なエネルギー　持続可能な発展

健康科学部
The Faculty of Health Sciences

産 Industry　福 Welfare　栄 Nutrition

研究トピックス

高齢者の栄養管理と食形態の調整や調理の工夫

専門分野

臨床栄養学　給食経営管理

栢下　淳子　Kayashita Atsuko

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymidygymggy

研究概要

疾病者に対する栄養管理
嚥下障害者に対する食形態の調整や調理の工夫
高齢者のフレイル，サルコペニア予防の提案

研究シーズの応用

嚥下調整食市販食品の評価を実施し，よりおいしく安全なものを提案

キーワード

嚥下調整食　低栄養　嚥下障害

健康科学部
The Faculty of Health Sciences

栄 Nutrition　福 Welfare

研究トピックス

食で育む毎日の健康

専門分野

公衆栄養学　栄養疫学　公衆衛生学

木村　安美　Kimura Yasumi

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiogooiggy

研究概要

病気を予防し健康な毎日を送るために食事はとても大切です。
これまで「シニア世代が住み慣れた地域で長くいきいきと暮らすための食事とは？」
をテーマとして研究を行って来ました。
具体的には、

1．病気を予防するための食事要因の栄養疫学的解析を行っています。
2．フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、認知症を予防する食事の検討、自宅で簡単に作ることができるレシピの提案、レシピ動画の作成を行っています。
3．住み慣れた地域で自立した生活を送るために不可欠な食料品の買い物状況と栄養摂取について調査し、地方自治体と連携し健康教室における調理実習献立の立案と栄養教育を行っています。

研究シーズの応用

単なるレシピの提案ではなく、栄養疫学をベースとした食事調査や科学的なエビデンスに基づく住民の皆様に役立つ情報の発信を行いたいと考えています。

キーワード

フレイル　サルコペニア、地域住民、食事　健康づくり

健康科学部
The Faculty of Health Sciences

産 Industry　栄 Nutrition

研究トピックス

官能評価と機器分析の併用による食品のおいしさの数値化

専門分野

食品学　官能評価

黒飛　知香　KUROTOBI Tomoka

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymbggbgkggy

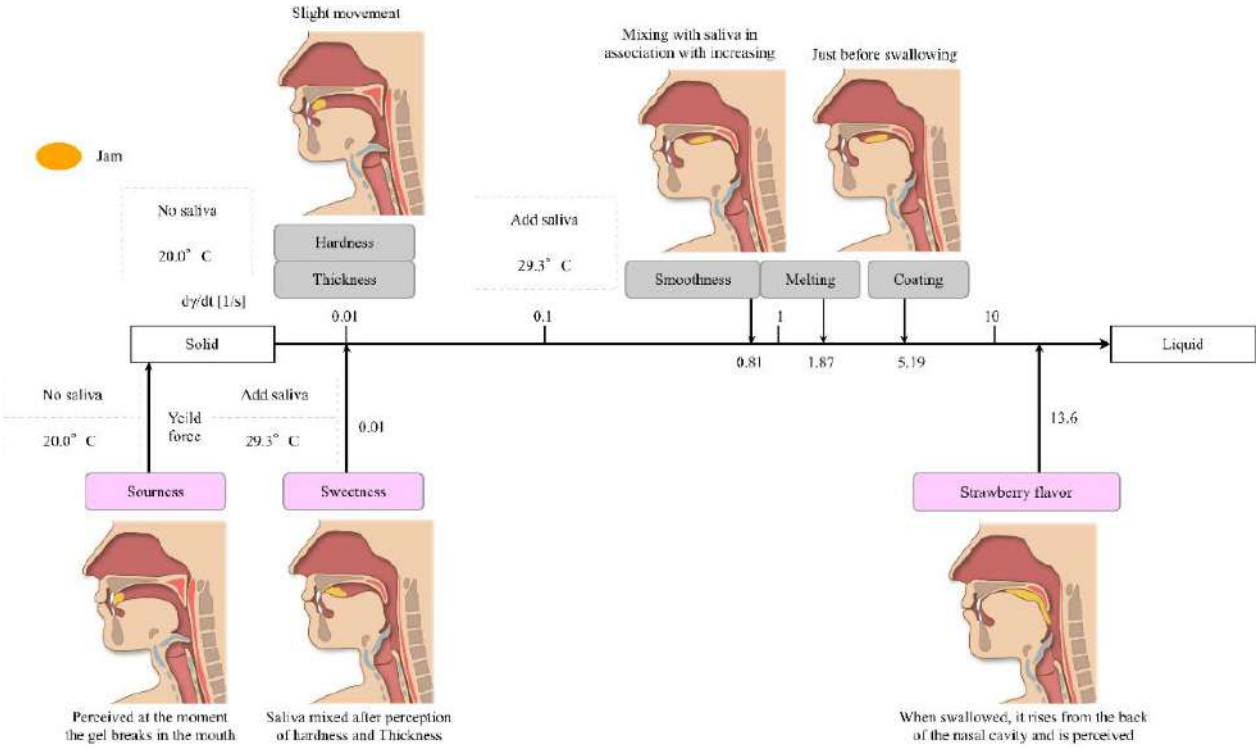
研究概要

食品の風味、テクスチャーなど「おいしさ」に寄与する要因の解明、知覚機序などについて研究を行っています。

・イチゴジャムの配合による品質（テクスチャーやフレーバーリリース）への影響について[1,2)]

官能評価と Short Back Extrusion method（以下、SBE 法）*も導入し、種々の機器分析を併用して官能評価に対応する力学的特性の解明を行った。その結果、官能評価値は SBE 法から得られる見かけ粘度と相関が高く、テクスチャー・風味特性ごとに口腔内条件が異なることが明らかとなり、見かけ粘度に対応した“ずり速度（ジャムの変形速度）”を舌の動きと想定し、それぞれのテクスチャー・風味を感じる際の口腔内の状態（唾液の有無、温度）および知覚順序を推測している。

* SBE 法：高粘度のテクスチャー評価に有用な新しい物性測定法。



1）Relationship between sensory analysis for texture and instrument measurements in model strawberry jam.，共著（FA），J Texture Stud. 49，p.359–369.（2018）
2）Influence of physical properties on the taste and flavor of strawberry jam.，共著（FA），J Texture Stud. 52 (2)，p.260–274.（2021）

研究シーズの応用

私たちが何気なく食べている食品ですが、管理栄養士や食品企業などにとって食品の風味やテクスチャーの客観化はとても重要なことです。これらの客観化の手段として、人の感覚（官能評価）および機器分析を併用して人の知覚に対応する指標（力学的特性）の把握を行っています。得られた成果は、商品開発や配合検討などへ活用することも可能と考えています。ジャムをはじめとしたゲル状食品の他、様々な食品に応用・展開できます。

キーワード

食べ物のおいしさ　官能評価　風味　テクスチャー　人の知覚機序

健康科学部
The Faculty of Health Sciences

産 Industry　栄 Nutrition

研究トピックス

食物アレルギー、危機管理、リスクマネジメントに関する研究

専門分野

給食経営管理学

齋藤　亜利沙　SAITO　Arisa

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymbbygsgggy

研究概要

食物アレルギーに関する研究は、単なるアレルギー反応の理解や栄養管理にとどまらず、当事者の家庭生活や教育現場での対応、さらには社会的な関係性にも深く関わっています。本研究では、食物アレルギーを持つ児童・生徒と、それを支える家族や関係者が受ける影響を明らかにし、その知見をもとに、給食における食物アレルギー対応のオペレーションシステムの改善を図ることを目的としています。具体的には、食事選択の変化や心理的負担、対応に伴う課題などを分析し、より効果的な運営体制の構築を目指します。最終的には、質の高い栄養・食事指導の実現と、管理栄養士として包括的なサポートの可能性を探ることを目指します。

研究シーズの応用

●教育現場での活用：保育士や教師が食物アレルギーに関する知識を深めるための教育プログラム
●企業との連携：食物アレルギー対応食品の開発やオペレーションシステムの構築、商品監修に関する支援
●行政支援：地域の食育イベントや栄養指導プログラムの企画・運営

キーワード

食物アレルギー、危機管理、衛生管理、リスクマネジメント、オペレーションシステム、食中毒

健康科学部
The Faculty of Health Sciences

教 Education　福 Welfare　他 Other

研究トピックス

現代の倫理的課題、現代社会の倫理教育の在り方の探究

専門分野

哲学、倫理学、倫理教育論

嶋﨑　太一　SHIMAZAKI Taichi

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymbdgdyiggy

研究概要

哲学･倫理学を専門とし､特にニュートンとカントの自然哲学の文献学的研究を主として行ってきました。同時に生命倫理や科学技術倫理など現代倫理学についても調査・検討しています。特に、今日の AI 技術やロボット技術の倫理的課題に関心を持っています。
また、高等学校教員、高等専門学校教員の経験を踏まえ、学校教育の倫理的課題についても追究しているほか、公民科「倫理」教育の方法や専門職倫理教育の在り方についても検討を続けています。

研究シーズの応用

哲学・倫理学の研究者ですが、高等学校の教材や大学の教育学のテキストの分担執筆も経験し、学校教育の課題などについても関心をもっています。
さしあたり以下のような点を対応可能領域としています。
1 生命倫理・医療倫理、AI の倫理などについての相談
2 教育の倫理、倫理の教育についての相談
3 哲学に関連する文献や資料の調査

キーワード

現代社会の倫理、教育倫理、倫理教育

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

教 Education　他 Other

研究トピックス

中国の政治外交研究、日中・米中関係を中心とした東アジア国際政治、中国文明の特質と日中文明の比較研究

専門分野

国際政治　中国政治外交　日中関係　文明論研究

王　偉彬　WANG　Weibin

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkdgkgbggy

研究概要

1. 中国政治外交研究
2. 日中・米中関係を中心とした東アジアの国際政治に関する研究
3. 中国文明の特質と日中文明の比較研究

著書（単著）:「中国と日本の外交 ― 一九五〇年代を中心にみた国交正常化へのプロセス―」（ミネルヴァ書房、２００４年)、

著書（共著）:中園和仁編『中国がつくる国際秩序』（ミネルヴァ書房、2013 年)。

研究シーズの応用

中国進出に際しての政治・経済事情等を含む異文化問題

キーワード

中国の社会環境　企業文化　社会風習

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

教 Education　街 Promotion of our community　他 Other

研究トピックス

ボトムアップなまちづくり・市民参画

専門分野

都市デザイン分野

木原　一郎　KIHARA　Ichiro

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdmgigbggy

研究概要

まちづくり、建築・公共空間の使い方の検討、建築設計の際に、一般市民がスムーズに参画できるような場・ワークショップ・アクションプランの計画などを行っています。特に市民参画が形骸化せず、今後自分ごととしての行動ができるようなプロセスや場について研究しています。広島市都心部での将来ビジョンを計画・実装していく取り組みを行っている#カミハチキテル- Heart of Hiroshima -にて実践的に研究しています。

またエリアマネジメントにおける協創のあり方を研究しています。協創が必要なことはみなさん理解されているところと思いますが、実現させるにはとても多くの壁があります。それを乗り越えるプロセスやアクションを実践的に研究しています。

研究シーズの応用

まちづくりへの一般市民の参画、建築設計や空間活用における地域住民の意見収集、地域の今度のまちづくりの方向性検討、これらの検討プロセスや場の設えなどにお困りでしたらお力添えできます。またエリアマネジメントの進め方もご相談ください。

キーワード

市民参画　ワークショップ　エリアマネジメント

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

福 Welfare　街 Promotion of our community　他 Other

研究トピックス

地域住民参加型の新しい民主主義のかたち

専門分野

政治学　政治理論　民主主義論

小須田　翔　KOSUDA Sho

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymbkgdgeggy

研究概要

民主主義、とくに熟議民主主義を研究の対象としています。なぜ熟議民主主義がよいのか、どのような熟議の形態がありうるかといった理論的なことや、市民の方々が集まって話し合いをする中で、男性と女性の間のばらつきや集団の極化現象などが生じることの問題性についても関心があります。
主な研究手法は政治理論です。政治理論では、正義・自由・平等・民主主義といった抽象的な概念を哲学的に分析します。この分析を通して、ジェンダー不平等、差別、格差、移民排斥、環境破壊などがなぜ問題なのかについての知見を得ることができます。

研究シーズの応用

1．主に民主主義や熟議民主主義について研究してきたことから、それに関する「ミニ・パブリックス」や「くじ引き民主主義」についての知見を共有することができます。新たな市民参加の方法として参加型予算や住民討議会、気候市民会議などの運営に参画することもできます。
2．政治理論・政治哲学の知見を提供することができます。フェミニズム、構造的不正義、差別、経済的格差などの問題を、理論的な観点からご紹介します。

キーワード

市民参加、ミニ・パブリックス、熟議民主主義

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

街 Promotion of our community

他 Other

研究トピックス

自治体の政策プロセス（of の知識）と、個別分野における政策課題とその対策（in の知識）

専門分野

地方自治法　地方自治論　政策法務論

澤　俊晴　SAWA　Toshiharu

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdogygsggy

研究概要

これまでは、都道府県条例と市町村条例の関係、条例による事務処理の特例と権限移譲、行政不服審査法と条例に基づく処分、手話言語条例や補助金等交付条例、浸水対策推進条例など個別の条例、自治体における政策実施過程などについて研究してきました。

研究シーズの応用

主に自治体の法務関係を中心に実務経験を積み、研究してきたことから、それらに関する審議会委員等に対応することができます。

キーワード

条例論、災害予防法制、政策実施過程論、政府間関係論、行政不服審査法関係

研究トピックス

言語コミュニケーション

専門分野

言語学

竹井　光子　TAKEI Mitsuko
教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkmgkgoggy

研究概要

専門は、コンピュータに人間の言葉を理解し処理させることを目的とする「計算言語学（Computational Linguistics)」。言語学と情報科学が融合した分野です。省略が多いといわれる日本語の言語処理を出発点として、日本語の独話・対話・会話にみられる特徴や傾向に焦点を当てた研究を続けています。最近は、多文化共生社会における「共通語としての日本語」によるコミュニケーションや、情報通信技術を活用して空間を越える「バーチャル交流」における異文化コミュニケーションの場面に注目しています。これらの場面での日本語インターアクションの特徴やその背景にある意識を探ることを研究のねらいとしています。

研究シーズの応用

多文化共生が進展する現代社会、機械翻訳の発展が言語の壁をなくしつつある AI 社会における日本語の位置づけやコミュニケーションについて考えます。まずは、われわれの第一言語である日本語について、そのコミュニケーションの特徴や文化的背景を客観的に把握することで、より効果的な「多文化共生社会における異文化間コミュニケーション」や「ICT、AI 社会における言語コミュニケーション」へとつなげることをねらいとします。異なる人と人、人と機械が互いを認め合いつつ、共存していく社会を目指します。

キーワード

言語　文化　コミュニケーション　ICT・AI

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

街
Promotion of our community

研究トピックス

政策分野ごとの活動者のつながりを調べる

専門分野

公共政策論

広本　政幸　HIROMOTO Masayuki

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymimyoykggy

研究概要

子どもの支援を行っている民間団体が、同じ取り組みをしている他の民間団体とどのようなつながりを持ち、行政機関とどのようなつながりを持とうとしているのかということに対して、民間団体のどのような構造や仕組みが影響を及ぼしているかを確認する。

研究シーズの応用

民間団体が他の民間団体とつながりをもって事業を行おうとする場合、どのような条件を整えればいいかを検討することに、応用できると考えられる。

キーワード

政策ネットワーク　民間団体

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

産 Industry　教 Education　観 Tourism　環 Environment　街 Promotion of our community

研究トピックス

各個人の幸福感を高められる、市民参画による持続可能なまちづくり

専門分野

都市計画　都市戦略　環境システム

三浦　浩之　MIURA Hiroyuki

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiggsgsggy

研究概要

地方版総合戦略、長期総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、景観計画、環境基本計画、循環型社会形成推進地域計画、廃棄物減量等推進計画、住生活基本計画、社会資本総合整備計画、下水道整備計画等の策定に関連する研究に取り組むとともに、各自治体において、これらの策定にも関与しています。とくに、EBPM Evidence Based Policy Making）と市民関与による政策・計画の立案、オープンガバナンス、そして、これらに寄与するオープンデータに着目しています。

研究シーズの応用

政策・計画の立案における EBPM アプローチと、立案における市民関与の手法およびオープンガバナンス、そしてこれらに寄与するオープンデータについて、応用できるシーズを有しています。

キーワード

EBPM　市民関与　オープンガバナンス　オープンデータ　協働

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

教 Education　観 Tourism　他 Other

研究トピックス

世界の中の日本について、日本政治、日本外交、国際政治の枠組みから考察している。

専門分野

国際政治学　国際日本学

三上　貴教　MIKAMI　Takanori

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkmgsosggy

研究概要

最新の研究において「十年一昔アプローチ」を提唱している。10 年前の施策を現在から照射することで、その成否、残された課題、今日への影響について考察する。また 10 年後のあるべき姿から現在の施策を検討し、その意味、有効性を議論する。首相による施政方針演説を主なテキストとしている。

加えて国際政治学理論におけるソフトパワーを考える研究、国際社会に横溢するランキングを素材とした研究も行っている。ランキングについては、これを無批判に受容するのではなく、その背後にある意図、問題意識、作成手法にも注意を向ける、言わばランキング・リテラシーの向上に結びつける必要性について主張している。

研究シーズの応用

「十年一昔アプローチ」は、本研究者が専門とする政治学に関連する分野を超えて、現在の社会状況を分析する上で、広範な領域における応用が可能である。10 年前の中国やアメリカが国連で主張していたことの内、何が実を結び、何が単なる掛け声だけに終わってしまったのか。国際社会の環境の変化を変数として認識しつつ、客観的、表面的に捉えられるデータを掌握すると共に、価値観やアイデンティティなど、文化的な要素も加味して論究する。世界の中の広島を考える上でも有用な手法であると確信している。

キーワード

世界の中の日本　日本の中の世界　ソフトパワー

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

教 Education　観 Tourism　他 Other

研究トピックス

チェコから見たヨーロッパ理解

専門分野

国際政治史　中欧地域研究　チェコ研究

矢田部　順二　YATABE　Junji

教員情報　https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiygioiggy

研究概要

これまで国際政治史研究の立場から、チェコ現代史、チェコスロヴァキア対外関係を研究してきました。チェコ共和国と周辺諸国の相互関係の歴史分析が専門領域です。チェコ教育省の政府給費留学生として2年半、さらに在チェコ日本大使館の専門調査員として2年、現地に滞在した経験から現地語であるチェコ語を使った研究をしています。地域を理解するには総合的アプローチが必要との考えから、政治研究のみならず文化理解の造詣も深めるように努めています。

研究シーズの応用

かつては「鉄のカーテン」の向こう側だったチェコスロヴァキア。現在はチェコ共和国となり、EU加盟国です。日本ではまだあまりよく知られていない国かも知れませんが、原爆ドームの設計者がチェコ人建築家のヤン・レツルであったことなど、広島ともつながりのある国です。地域研究の立場から情勢説明や、地域理解の支援、あるいはチェコ語学習の教授などができます。また、中欧地域の政治文化についても解説することができるでしょう。

キーワード

ヨーロッパ理解　地域研究　チェコ語

国際コミュニティ学部
The Faculty of Global and Community Studies

街 Promotion of our community

他 Other

研究トピックス

地方自治体の行政管理、組織運営

専門分野

行政学 地方自治論 公共政策論

山中 雄次 YAMANAKA Yuji

教員情報 https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdigmgyggy

研究概要

地方自治体における行政改革、人事や組織運営を主な研究テーマとしています。とりわけ、2000 年初頭に地方自治体間で大流行した NPM の「その後の姿」について考察しています。これまでに、行政経営計画、政策評価、指定管理者制度、市民協働に関する研究成果があります。

研究シーズの応用

地方自治体での長年の実務経験とそれをベースとした研究を踏まえ、地方自治体が開催する各種委員会・審議会に参画し、議論に加わることが可能です。
また、担当するゼミナールの時間、自治体職員の皆様にご出席いただき、大学生と意見交換することも大歓迎です。若者の声を聴いてみませんか？

キーワード

地方自治、行政経営